

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立あけぼの学園高等学校 )

1 目指す姿

<p>(1) 目指す 学校像</p>	<p>○「強く明るく真心で」を校訓とし、あけぼの学園高校の生徒として一人ひとりが“自信と誇り”をもち、地域に貢献し地域から信頼される学校</p>	
<p>(2)</p>	<p>育みたい 生徒像</p>	<p>○学びに向かう力を育み、成果をあげる体験を重ねることで自己肯定感・自己有用感を高め、新しい時代を生き抜く力を持っている。</p> <p>○制服や髪型など高校生としてふさわしい身だしなみを整えている。</p> <p>○他の生徒の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ共通の課題に対し協力して取り組んでいる。</p> <p>○地域の一員として積極的に活動することで、地域から信頼を得ている。</p>
	<p>ありたい 教職員像</p>	<p>○目指す学校像の実現に向け、「チームあけぼの」の一員として自校の存在価値を高めている。</p> <p>○授業を大切に学力向上を図るとともに、生徒の小さな成長の積み重ねに力を注ぎ、その成長を目にすることを自らの喜びとし、自らも成長しようとしている。</p> <p>○生徒及び教職員相互の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ学校の抱える課題に協働して取り組んでいる。</p> <p>○様々な形で積極的に地域と連携・貢献し、地域とともにより魅力ある学校づくりに取り組んでいる。</p>

2 現状認識

<p>(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</p>	<p>&lt;生徒&gt; ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活</p> <p>&lt;保護者&gt; ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上、進路実現</p> <p>&lt;中学校&gt; ○中学校に対する理解、多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現</p> <p>&lt;地域社会&gt; ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校の情報提供、地域の担い手育成</p> <p>○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成</p>
------------------------------------	--

		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<保護者> 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現 <中学校> 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供 <地域社会> 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供 開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上	<保護者> 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言 <中学校> 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養 基礎学力の定着 目的意識の向上 <地域社会> 地域の子どもたちの本校へ入学希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「少人数だからこそできるしっかりとした生徒との関わり」や「地域との連携」は本校の強みだと感じるので大事にしてほしい。</li> <li>○職員室前廊下に設置した机で学習する生徒がいることは、前向きで望ましい姿であるので継続してほしい。</li> <li>○テスト前補習や面接練習など、面倒見の良いていねいな指導が魅力的である。</li> <li>○運動部の部員数は少ないが、校内外合同で練習・試合をするなど活動を充実させる工夫をし、学校の活性につなげている。</li> <li>○遅刻は減少傾向にあるが依然として多く発生していることが課題である。それに対する取り組みとして、各学年次団と連携しクラス単位で基準を設けて指導することで成果を上げ始めている。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊賀地区の中学校卒業者が減少している中で、選択科目の充実や生徒個々への丁寧な指導などにより、募集定員を満たしている。今後とも小・中学校や地域との連携をより進めることで、魅力ある学校づくりに取り組むことが必要である。</li> <li>○基礎学力が十分に定着していない生徒や様々な課題をかかえる生徒もいる。そこで、学習指導や評価の方法を工夫するとともに、特別な支援や配慮をし、生徒に社会で生き抜く力を身につけさせることが必要である。</li> <li>○生徒指導上の違反を繰り返す生徒も一部いるが、根気強い指導を継続している。その際、普段から全職員の意識と指導を統一していくことが必要である。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小・中学校、地域の方々との連携を通して、生徒の達成感や自己肯定感の向上が感じられる。今後も生徒の成長を柱に地域連携・地域貢献の取組を推進し、学校活性化につなげるとともに、地域の活性化にも寄与していくことが必要である。</li> <li>○教職員が健康で意欲を持って日々生徒の指導に取り組めるよう、ワーク・ライフ・バランスに留意し過重労働の防止やさらなるチームワーク向上を図っていくことなどが、小規模校である本校には必要である。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○生徒に基本的な生活習慣の確立や部活動・資格取得等への積極的なチャレンジを促し、基礎学力やコミュニケーション能力・体力を向上させ、生徒一人ひとりの希望進路実現を図る。</p>
学校運営等	<p>○情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。</p> <p>○学校行事・分掌業務・部活動指導等について、精選や見直しを行うとともに、同僚性を発揮し、協力・協働して取り組む体制を確立することで、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるようにする。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果
学習指導の充実	<p>生徒の実態に即した学習指導を工夫し、基礎学力を定着させる。</p> <p>【活動指標】 授業公開及びテスト前補習を各2回以上実施する。</p> <p>【成果指標】 レッドカードの件数が72件以下となる。</p> <p>※「成績不振者報告書」として、以下の2種類のカードを使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レッドカード ... 不認定・未履修</li> <li>・イエローカード ... 欠課5分の1超・成績不振</li> </ul>	<p>①第1回授業公開(5/7~5/11)実施</p> <p>②第1回テスト前補習(9/5~9/11)実施 実施科目 8科目(昨年度5科目) 対象生徒 のべ65名+自由参加 (昨年度 のべ29名+自由参加)</p> <p>③第2回授業公開(10/7~10/11)実施</p> <p>④第2回テスト前補習(11/14~11/20)実施 実施科目 9科目(昨年度5科目) 対象生徒 のべ65名+自由参加 (昨年度 のべ45名+自由参加)</p>

		<p>レッドカード、イエローカードの件数 2020年1月24日まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レッドカード 20枚 (13人) <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次 3枚</li> <li>2年次 9枚</li> <li>3年次 8枚</li> </ul> </li> </ul> <p>〈参考〉</p> <p>平成30年度 72枚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次 1枚</li> <li>2年次 52枚</li> <li>3年次 19枚</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イエローカード 591枚 (116人) <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次 145枚</li> <li>2年次 305枚</li> <li>3年次 141枚</li> </ul> </li> </ul> <p>〈参考〉</p> <p>平成30年度 891枚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次 131枚</li> <li>2年次 529枚</li> <li>3年次 231枚</li> </ul>
<p>生徒指導 の充実</p>	<p>(1)「そとみ」の指導に取り組む。 (2)遅刻の減少に取り組む。</p> <p>【活動指標】 頭髪服装・登校指導を行い、規律に則った学校生活を励行させる。</p> <p>【成果指標】 (1)頭髪服装違反総数が昨年度より下回る。 (2)今年度の遅刻総数が昨年度より下回る。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頭髪服装違反数 870 (昨年度同時期 572)</li> </ul> <p>前年度比+52%。特に2年次が全体の46%と違反が目立つ。違反を繰り返す特定の生徒に対する効果的な指導方法を考える必要がある。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻数 1505 (昨年度同時期 1774) 内、登校遅刻 878、授業遅刻 627</li> </ul> <p>前年度から15%減少した。遅刻の43%が3年次であるため、来年度はより一層の減少を目指したい。遅刻を繰り返す生徒の生活改善が課題である。</p>

(1) 生徒自身が学ぶ姿勢を身につけ、積極的に資格取得に挑戦するよう働きかける。

(1) 検定・資格取得の状況

名 称	級	合格者数		
		1年	2年	3年
ビジネス文書実務検定	2		1	1
	3	6	7	
	4	38	2	
ビジネス文書実務検定 (ビジネス文書部門)	1			1
	3	1		
	4	1		
ビジネス文書実務検定 (速度部門)	1	2		1
	2	2	2	2
	3	8	2	
	4	21		
情報処理実務検定	2		2	2
	3			1
簿記実務検定	3		1	2
食物調理技術検定	2			5
	3		15	
	4		17	
被服製作技術検定	3		5	
	4		11	
日本漢字能力検定	3	4		
	4	2		
	5	11		
	6	5		
世界遺産検定	4		1	
介護職員初任者研修修了				4
救命入門コース	参加証			67

部活動・資格取得の推奨

(2)

部活動に参加するように積極的に働きかける。

【活動指標】

SHR、LHR、進路行事等を通して、資格取得や部活動について、案内やガイダンスを行う。

【成果指標】

資格試験、検定等の受検者や部活動に参加している生徒数が昨年度を上回る。

(2)

部活動の加入状況

	1年	2年	3年	合計
運動部	18	15	14	50
文化部	58	42	66	166
合計	76	57	80	216

- ・約8割の生徒が部活動に加入している。各年次約10名の生徒が兼部している。
- ・実際に活動している生徒は、加入者の7~8割ほどであり、意欲的・積極的である。
- ・文化系では、ビューティークリエイイト部が96人(43、30、23)を占めている。

キャリア  
教育の  
充実

(1)  
すべての生徒が進路を決定して卒業することを指す。

【活動指標】

生徒の希望を把握して、就職または進学に向けて指導する。

【成果指標】

すべての生徒が進路を決定して卒業する。

(2)  
社会の一員としての自己の生き方、あり方を考え、自ら行動できる人材の育成を目指す。

【活動指標】

1年次「産業社会と人間」、2・3年次「総合研究」、ならびに各授業、特別活動等において体系的に取り組む。

【成果指標】

各年次でのアンケート調査において、生き方を考える態度や意欲の向上がみられる。

(1)  
〈3年次〉

- ・希望進路については、一人ひとりの対話を大切にし、アドバイスを的確に行った。
- ・面接指導を全教員で行い、大多数の生徒が希望進路へ進んでいる。ただし、内定後の社会人へ向けての自己研鑽や意識が低い生徒が多い。

学校紹介を希望する生徒の就職内定 100%

就職内定者 48名

進学内定者 18名

その他 4名（家事手伝等）

〈1・2年次〉

- ・まだ何をすべきか考えられず、自身の進路に対しての意識が低い生徒が多い。希望進路があっても、先を見通した行動、学習などの早期準備ができていない。

(2)

- ・キャリア教育の育成として、全校生徒を対象とした「卒業生講話」や1・2年次を対象とした「キャリアガイダンス」を実施している。

- ・本年度は県事業である「地域課題解決型キャリア教育構築事業」に参加している。その中で、製菓調理系列と1年次を対象に、【地域の魅力や課題を知り自分に何ができるのかを主体的に考え行動する】という目的で講演会やフィールドワークなどに取り組んだ。

- ・今後は1年次を対象に「『学ぶとは、生きるとは』という講演会」（11月）や「インターンシップ」（12月）を行った。

<p>人権教育 ・ 道徳教育 の充実</p>	<p>人権だより「ことだま」や人権LHRなどにより、人権意識を高め、互いを尊重し、自他ともに大切にする学校風土を醸成する。</p> <p>【活動指標】 人権だより「ことだま」を発行する。3年間を見通した人権LHRを実施する。HRC風への参加を呼びかける。</p> <p>【成果指標】 生徒アンケートにおける「人権に対する理解を深め、人権尊重の行動へつなげる」数値が90%以上となる。HRC風への参加者が増加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月にSNSへの不適切な書き込み事象が発生した。</li> <li>・1月末までに人権だより「ことだま」を9回発行した。</li> <li>・前期、各学年で計画どおり人権LHRが行われたが、1年次においては、現状に合わせた内容に変更したLHRが行われた。</li> <li>・HRC風には、2年次生1名がほぼ毎回参加している。また、3年次生2名が一度ではあるが、参加した。</li> <li>・人権フェスティバル(第1・2回)には、2年次生、1年次生各1名が参加した。</li> <li>・12月に全校生対象の人権講演会を開催した。</li> <li>・人権アンケートを1月に実施した。</li> </ul>
------------------------------------	--	--

改善課題

- ・イエローカード、レッドカードの件数が多い。生活習慣や学習習慣に起因する警告が多くを占める状況である。
- ・頭髪服装違反が多い。1年間の遅刻数を1300までに留めたい。
- ・各種検定への受検者が少ない。選択科目、教科に関する検定への挑戦がほとんどない。
- ・名前だけの部員が少なからず存在する。
- ・多くの生徒において卒業後の進路を意識し始める時期が、3年次生の6・7月頃と遅い。基本的な生活習慣の確立と学力を高めることが必要である。
- ・HRC風への参加者を増加させる。
- ・人権に対する理解を深め、人権尊重の行動へつなげる。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」  
など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果
情報発信 ・ 学校 活性化 ・ 地域貢献	<p>(1) 地域や中学校への情報発信を効果的に行い、交流を進める中で教育活動の活性化を図る。</p> <p>【活動指標】 地域や中学校からの学校理解が進み、学校の活性化や地域貢献につながるよう、情報提供を効果的に行う。</p> <p>【成果指標】 地域アンケート(学校評価)で本校の教育活動の理解度が昨年度を上回る。</p> <p>(2) 学校の魅力化を図るため、系列やカリキュラムの研究、検討を行う。</p> <p>【活動指標】 系列やカリキュラムに関する教員研修会、検討会を実施する。</p> <p>【成果指標】 カリキュラムマネジメントが進む。 教職員の満足度調査(学校改革数値)の結果が昨年度を上回る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柘植地区で行われる斎王祭りに本校生徒男女計 20 名が参加した。</li> <li>・ 小学生との交流授業を壬生野小(21 名)、柘植小(18 名)、西柘植小(11 名)と行った。</li> <li>・ 出前授業を柘植中、霊峰中、青山中、崇広中に行った。</li> <li>・ 日置神社の絵馬について今年も本校生徒が原画を作成し奉納した。これで 3 年連続である。</li> <li>・ 地元霊峰中学校の保護者にアンケートを実施。今年度は全体に前年度を下回る結果になった。(別紙参照)</li> <li>・ 日本語指導が必要な生徒に対して、習熟度別の一環として授業を展開し、基礎学力アップを次年度から実施する。</li> <li>・ 多くの項目で意識の向上が見られ、結果が前年度を上回っている。</li> </ul>
	<p>(1) 教職員のワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進し、総勤務時間の縮減に取り組む。</p> <p>【活動指標】 定時退校日を月 1 回設定し、実施率 90%とする。(H30:85%) 部活動の休養日を週 1 回設定し、実施率 100%とする。(H30:100%) 放課後に開催する定例会議は 60 分以内で設定し、実施率 100%とする。(H30:95%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 月末現在で実施率 93%である。</li> <li>・ 2 月末現在で実施率 100%である。</li> <li>・ 2 月末現在で実施率 95.3%である。</li> </ul>

<p>組織運営 働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ OJT</li> <li>・ チームワークの向上</li> <li>・ 資質向上</li> </ul>	<p><b>【成果指標】</b> 年休取得日数を一人1日増加／年 (H30:14.0日)</p> <p>時間外労働時間を一人1時間削減／月 (H30:16.2時間)</p> <p>月45時間超の時間外労働者を10%削減／年 (H30:9人)</p> <p>(2) 若手教職員が意見を出し活躍できる場を設けるなど、OJTを推進する。</p> <p><b>【活動指標】</b> 若手教職員を中心とした学校マネジメント委員会から学校改善活動の提案を行う。</p> <p><b>【成果指標】</b> 教職員の満足度調査(学校経営数値)の結果が昨年度を上回る。</p> <p>(3) すべての教職員が法令遵守のもとで、協力・協働して取り組むことができるよう意識の変革を図る。</p> <p><b>【活動指標】</b> 不適切な事例の共有やコンプライアンスミーティングを行い、問題点の把握や不祥事根絶に向けての意見交換を行う。</p> <p><b>【成果指標】</b> 教職員の満足度調査(意識改革数値)の結果が昨年度を上回る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏季休業等の特休も含めると16.52日取得している。</li> <li>・ 機械警備を導入以降残っている教員が減少した。</li> <li>・ マネジメント委員会において若手教員の意見を集め実行している。その結果、部室や屋外トイレのペンキ塗りなど環境美化を実施した。</li> <li>・ 満足度については昨年度の59.5点から62.2点上回っている。</li> <li>・ 簡単な意見交換を行っているのみにとどまっている。</li> </ul>
<p>改善課題</p>	<p>喫緊の教育課題が多くあり、また中・長期的な課題についても議論する必要がある。短期的には、基礎学力の定着と外国にルーツのある生徒に対しての学習習慣定着及び基礎学力の向上が必要になる。また、中・長期的にはあけぼの学園高校の今後のあり方についても議論する必要がある。今回12月現在の県内中学生の進学希望調査では希望者86名で定員を6名オーバーしている。今あけぼの学園高校に何が求められているのかをリサーチして、ニーズに合った改革をする必要がある。</p>	

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 成果発表会の観客席の生徒を見ていると挨拶や聞く態度など非常によく、この状態を続けられるようにしてほしい。</li><li>・ 地域との連携については非常によく頑張っており、地域からの信頼も厚いこのことは本校の強みだと感じるので大事にしてほしい。</li></ul>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動 についての 改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ イエローカード等で出席状況や提出物について粘り強く指導すること続ける。</li><li>・ 特定の違反者について指導拒否を適用し、特別指導を行う。遅刻数のクラス目標を設定し、数の多いものに対するペナルティを徹底する。</li><li>・ 授業やホームルームでの粘り強いアナウンスや進路実現につながる資格の紹介など、資格取得に向けて意識を高める取組を学校全体で行う。</li><li>・ HRC 風への参加者が増加するよう、引き続き人権だより「ことだま」を通じて広報活動を行っていききたい。</li><li>・ 自他の人権を大切にするために、12月18日(水)に全校生徒対象に、「インターネット(SNS)と人権」について講演会を実施したが、次年度以降も引き続き講演会などを実施していききたい。</li></ul>
学校運営 についての 改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 業務の効率化や連携協力体制づくりと併せて、取組を進めていききたい。</li><li>・ 少人数の教職員集団であることを強みととらえて、小回りのきく学校経営を行えるようにする。</li><li>・ 課題の共有化を図り、全員でその課題に向かえるように情報共有を図る。</li><li>・ 働き方改革の基、業務内容の見える化を進め、業務の均等化を進める。</li><li>・ 少人数学校の強みを生かし、資源の集中を図る。</li></ul>